

## ■ EM野菜の作り方 6 ■

# ニンジン

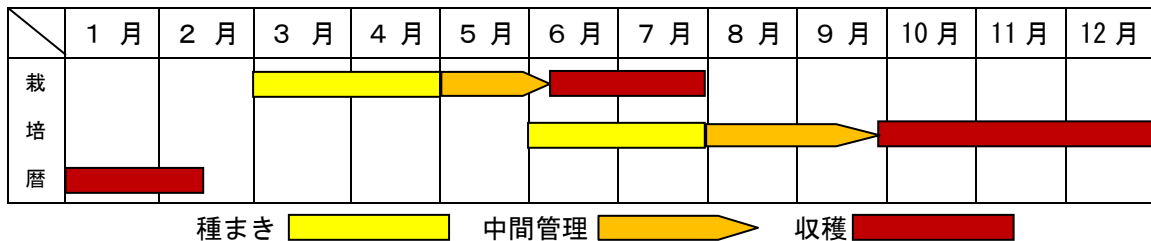
科目：セリ科 原産地：中央アジア地方

### 【特性】

\* 発芽適温・15~25℃      \* 栽培適温・18~25℃      \* 最適PH・6.0~6.5

- ・ 冷涼な気候を好みますが、品種が非常に多くそれぞれの季節に適したものを選ぶと失敗が少ない野菜です。
- ・ アフガニスタンを中心に東西に伝播したので、東洋系品種（細長い・長根系）と西洋系品種（太く短い・五寸系）に大別されます。
- ・ 根もの野菜では珍しく、緑黄色野菜（100g中βカロテンが600マイクログラム以上含まれているもの）で、葉は根よりもビタミン・ミネラルが豊富にあります。
- ・ 収穫後10日程でビタミンAがピークになります。

### 栽培カレンダー



### 栽培方法

#### 1. 畑の準備

種まきの2週間ほど前に土づくりをしておきます。

※ 岐根の原因となる小石や夾雑物は取り除きましょう。また、堆肥や未熟有機物などを直前に使用してはいけません。

#### 2. 種まき

今回はラインマルチ栽培をします。

- ① 畝上の残渣や草を畝間に寄せて、畝を均します。
- ② 60cmの畝中央にラインマルチ（肥料の空袋などを使う）を作ります。ラインマルチの上に、畝間に寄せた残渣や青草を置いて風で飛ばされないようにします。マルチの上に置く事により、雑草の根が土に触れることなく枯死し、分解途中の雑草はクモ等の益虫の住み家となります。
- ③ あらかじめ水をたっぷりやり、水が引いたら、ラインマルチの両サイドに溝を作ります。

- ④ 溝に播種します。好光性種子なので、土はごく薄く指で挟む程度に掛けます。
- ⑤ もう一度水をたっぷりやります。不織布をベタ掛け（全面を平に覆うこと）すると乾燥抑制や害虫忌避効果があります。



※7日～10日で発芽しますが、発芽が揃うまで少し時間が掛ります。

※土を厚く被せ過ぎたり、発芽する前に乾燥させてしまったりすると発芽が揃わなくなります。種まき後の水管理には特に注意しましょう。

### 3. 中間管理

#### ① 水やり・除草

ニンジンなどセリ科の野菜は発芽から幼苗までの初期の生育がゆっくりなので、気長に育てましょう。土を乾燥させないように土が乾いたら水やりをします。発芽してからは雑草に負けないようにこまめに除草管理が必要です。

#### ② 間引き

発芽が揃ったらすぐに1回目の間引きをします。指1本分のスペースをあけるように、形が悪いもの、生育が遅れているものを抜き取ります。

本葉3～4枚になったら2回目の間引きをします。隣の株の葉と触れ合わない3～5cm程度の間隔で抜き取ります。

本葉5～6枚になったら3回目の間引きをします。間隔は10～15cm程度です。

※間引きする時は間隔をあけすぎない事！ニンジンは隣と競合して生長していきません。

※間引きした後は、残った芽がぐらつかないように両側の土を株元に寄せます。この時生長点を埋めないように注意します。

#### ③ 追肥・水やり

土寄せをしたら、EM3点セットを施用しましょう。（目安：EMボカシ 200g/m<sup>2</sup>、EMスーパーセラ発酵C 10g/m<sup>2</sup>、EM活性液 500倍～1000倍希釈液 2L/m<sup>2</sup>）

### 4. 収穫

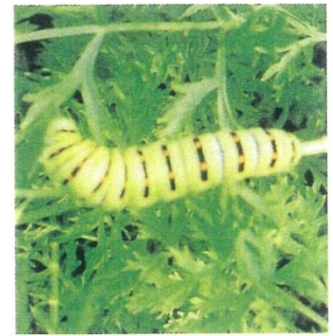
ニンジンの肩が張って、草丈が15～20cmになったら収穫です。根が十分に太ったものから収穫します。

※12月以降の寒い時期はニンジン株の上の葉半分ぐらいまで土寄せをしておくと翌2月頃まで収穫できます。



## ここがポイント！

- \* 肥料が多すぎたり、追肥の時期が遅いと葉ばかり茂って根が太くなりません。追肥は本葉 6~7 枚のときで終わらせましょう。
- \* 発芽から幼苗までの期間の条件によって、生長の速度や根の大きさが変わることがあります。栽培初期に隣の作物の影になったりすると生長が悪く、日当たりの良い場所で育つと太ったニンジンになります。特に幼苗のうちの日当たりと水管理が大切です。
- \* セリ科の野菜に発生し易い害虫はキアゲハの幼虫です。モリモリ葉を食べる食欲旺盛な虫で葉を全部食べてしまいます。見つけ次第捕えて処分しましょう。つぶすと臭いので気をつけましょう。



害虫：キアゲハの幼虫